

【東海村】

1人1台端末の利活用に係る計画

1. 1人1台端末を始めとするICT環境によって実現を目指す学びの姿

学習指導要領及び中央教育審議会答申「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～」（令和3年1月）等を踏まえ、東海村では児童生徒の一人ひとりが様々なことに興味関心を持ち、意欲を持って学習に取り組めるようICT情報機器、特に1人1台端末の効果的な利活用方法を模索しながら、学習指導の充実化を図っていくこととする。

2. GIGA第1期の総括

東海村では、これまで1人1台端末の整備と共に、校内などの通信ネットワークの整備を進めてきた。ICT支援員の助言や各種研修により、授業での活用も徐々に進んできており、児童生徒同士で意見交換を行い、問題解決に取り組むといったことも行われている。また、不登校の児童生徒に対してオンラインで学習補助を行うなど、学びの保障へも対応した。一方で、整備した端末の故障の割合が高く、目指す学びの姿の実現の上で、端末利用において支障が出た場面も見られた。さらに、端末の整備数の都合により、一部の教員においては共用で端末を利用することもあった。令和4年度に追加で26台を購入して整備したが、それでも十分に活用できない場面が見られた。

3. 1人1台端末の利活用方策

端末の利活用を進めていくにあたり、端末の整備・更新により、児童生徒向けの1人1台端末環境を引き続き維持していくと共に、1人1台端末の利活用方策として以下について検討していく。

<児童生徒の学習意欲及び関心の向上>

- ・1人1台端末を活用することで、インターネット上の豊富な教材や、画像映像を使って児童生徒の興味や関心を高める。
- ・1人1台端末及びクラウドツールを活用し、Web会議システム等を利用することで、学校外の専門家と交流し、専門的な内容を聞くなど、学習内容への関心を高め多様なものの見方や考え方を身に付ける。

<個別最適・協働的かつ主体的な学びの充実>

- ・学習発表会など、学習内容をまとめて発表する活動に1人1台端末を含むICTを活用することで、児童生徒のプレゼンテーション力を向上させながら思考力・判断力・表現力等を向上させる。
- ・意見や考えを議論する際や、グループで作品の共同制作を行う際に1人1台端末を含むICTを活用することで、目的を円滑に共有し、より効果的に協働学習を進める。
- ・学習定着ソフト・AIドリルを活用した授業や家庭学習を行うことにより、児童生徒に

合わせた知識の定着を図り、主体的に学習に取り組む態度を養う。

- ・生成AIを活用した学習の実践事例や先進的取組などの調査に加え、域外の取組についても意見交換を積極的に行う。
- ・不登校児童生徒への支援、児童生徒への端末を活用した教育相談、外国人児童生徒に対する学習活動等の支援、障害や病気療養児等の特別な支援を要する児童生徒の実態等に応じた支援など、それぞれの児童生徒への細やかな対応を行う。

＜端末整備・利活用の強化＞

- ・端末更新の際の選定においては、CPUのスペックが一定以上のもののなかから、なるべく堅牢な機種を選ぶ。
- ・端末の台数は極力減らさないこととし、児童生徒数の減少によって余剰の出た端末については、教員が積極的に活用するように促す。
- ・購入により取得した端末（26台）については、活用方法を検討する。